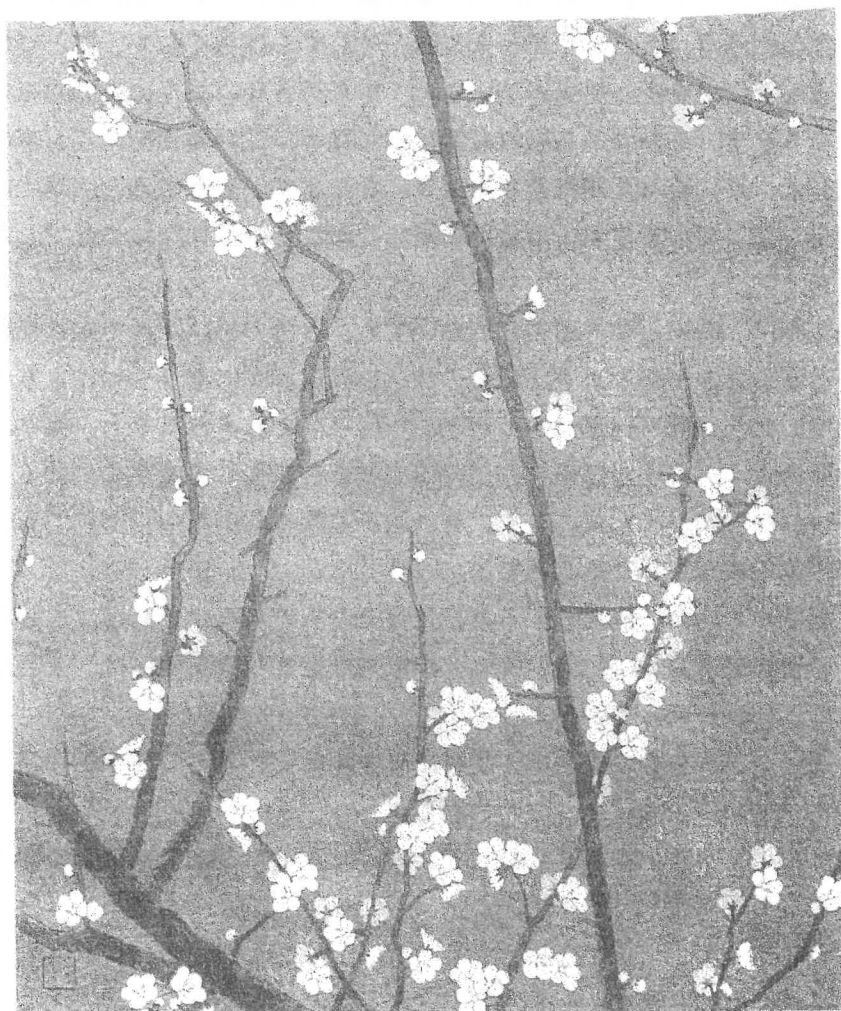


2004. 2

霊性センターニュース

185号



## 「その響きは全地に」

カルメル会 中川 博道

学生時代に車の免許を取ってまもなく、1万7千円の中古車を買いました。乗っているうちにエンジンの調子が悪くなり、診ていただこうと、車に詳しくよく修理しておられた指導司祭に願い出ました。ところが、まったく診てくださる様子もなく、「あなたは車を洗っていませんね。車を洗いなさい」と一言おっしゃいました。当時まだ舗装されていない泥んこ道の多い時代、さすがに車は汚れていました。訳が分からず車を洗って、何とか走っていました。しかし、しばらくして又、どうしても思わしくなく、再びその司祭を訪ねましたが、対応はまったく同じでした。さすがにその時から「車の調子が悪いので、車を洗うとはどういうことなのだろう」と自問し始めました。そしてしばらくして、ひとつのことに気づきました。車を洗って走っていると、車を汚さないように自分の車を気遣うようになります。走りながらも無意識のうちにエンジンの音を聴き、車の様々な音に注意し、車に合った運転をするようになります。そうすると、車の調子は少しずつ良くなっていきます。自分にとってこのことは大切な気づきでした。

私たちは、時々、生きることにしても、自分の思いだけで走りたいように走ろうとすることがあります。自分の状態を気遣わずに走りつづけようとして、体調を崩したり、周りとはぶつかったり、空回りしてしまったりと、様々な問題が起こり始めます。心の叫びや、存在の不協和音を無視して走りつづけるとき、身動きが取れなくなってしまいます。それは、家族や共同体のレベルでも、また、国家や地球規模でも起こることです。

最近のニュースに触れていると、社会そのものが叫びをあげ、きしみをうならせている出来事がつづいています。国際的な様々な緊張関係は、人類全体の中にある不協和音を表しているようです。

人間存在そのものの響きに、丁寧に耳を傾けることへの呼びかけが、今、私たちに届いているように思うこのごろです。

「立ち止まって、ひとりになって、聴いてみる」ことを、家族や様々なレベルで生きる必要を感じています。

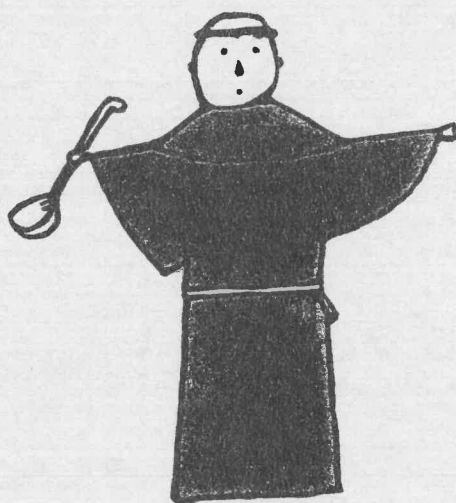
話すことも、語ることもなく

声は聞こえなくても

その響きは全地に

その言葉は世界の果てに向かう。(詩編 19. 4-5)

# カルメル会の企画案内





# カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：本質的なものからの再出発

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分）  
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会  
(TEL 03-3704-2171)

日時：下記の各土曜日 午後2時半開始  
(講話の後、主日のミサがあります)

- 2月28日(土) 中川博道(カルメル会司祭)  
「福音の本質—現代の霊性的分析」
- 3月6日(土) 松田浩一(カルメル会司祭)  
「現代日本の教会においてキリスト者の本質は何か」
- 3月13日(土) 大瀬高司(カルメル会司祭)  
「共同体の本質(仮題)」
- 3月20日(土) 九里 彰(カルメル会司祭)  
「愛の証しとしての奉獻生活」
- 3月27日(土) 新井延和(カルメル会司祭)  
「カルメルの本質—観想と神」

毛 野 聖  
カルメル修道会 と 聖テレジア修道院 (黙想)

2004年4月～2005年3月までの黙想会予定表

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日 16時)

4月 3日～ 4日・・・九里彰師	9月4日～ 5日・・・奥村一郎師
5月 8日～ 9日・・・奥村一郎師	11月27日～28日・・・九里彰師
6月26日～27日・・・九里彰師	'05/3月19日～20日・・・奥村一郎師

2. 奉獻生活者のための黙想会

- ・ 7月27日(火) 16時 ～8月 5日(火) 朝・・・渡辺幹夫師
- ・ 8月11日(水) 16時 ～8月20日(金) 朝・・・チプリアノ師
- ・ 12月27日(月) 16時 ～1月5日(水) 朝・・・九里彰師

3. カルメルの聖人を見つめ霊性を深める

(毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア

B・・・十字架の聖ヨハネ

- |           |            |
|-----------|------------|
| (1) 4月21日 | (1) 5月26日  |
| (2) 6月 2日 | (2) 7月 7日  |
| (3) 9月29日 | (3) 11月24日 |
| (4) 12月1日 | (4) 1月19日  |
| (5) 2月16日 | (5) 3月 2日  |

4. 青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

- (1) 5月22日(土) 16時～23日(日) 16時
- (2) 11月6日(土) 16時～7日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)・・・九里彰師・原修士

10月1日(金) 16時～3日(日) 16時

6. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話・夕食なし) チェックアウト午前10時まで

- (1) 復活祭 4月10日(土)～11日(日) 朝食
- (2) クリスマス 12月24日(金)～25日(土) 朝食
- (3) 復活祭 '05/ 3月26日(土)～27日(日) 朝食

7. ユース リトリート《カルメルの泉》 青年男女 大瀬高司師

(1) 5月1日(土) 16時～2日(日) 14時

\* 年間に何回か企画する予定ですので、その都度お知らせします。

8. 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからお越しください。どなたでも参加できます。

① 6月 7日(月) 20時～ 9日(水) 15時 新井延和師

② 10月25日(月) 20時～27日(水) 15時 新井延和師

③ 5月28日(金) 20時～30日(日) 15時

“わたしは神を観たい。” カルメルの霊性 Sr. 伊従信子

④ 11月19日(金) 20時～21日(日) 15時

“テレーズと共に祈る” Sr. 伊従信子

9. 待降節黙想会 チプリアノ師

12月3日(金) 夕食 ～ 5日(日) 15時



\* 電話でのお問い合わせは 午前9時～午後4時45分までをお願いします。

また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)担当 br 原

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

# 聖書深読へのお誘い

聞き慣れたみ言葉も、深く読んでみると意外な発見をします。  
それも自分自身で発見できたのです。(50代女性)

神父様の解説から、なぜこのみ言葉が発せられたのか、時代の背景や、その時代の習慣などから、イエス様が語られた必然性が納得できました。

(修道者)

聖書を難しく感じていましたが、参加してみると、自由な雰囲気では他の人たちの意見や感性から私自身の想いが引き出され嬉しかった。(20代男性)

信仰者でない私が参加し、取り組むことができたことは、驚きであり、嬉しい気持ちになりました。(一般社会人)

以上はこれまでに参加した方々の感想の一部です。

「思いのままに吹く霊に息吹かれた個別の深め、参加者との交わりの場を通して、知らなかったみ言葉の味わいを知り、自らの生き方、信仰の手がかりを確かめる」ことが、ありとあらゆる人々に開かれた絶妙なプログラムがここにあります。毎回、予測不能のまったく新しい照らしと展開がある。事前準備不要の百聞に勝る一見に参加なさって見ませんか。

(2月の上野毛担当司祭 大瀬神父)

- \* 2月21, 22日の聖書深読はまだ若干名の空きがありますので興味のある方は是非ご参加下さい。3,4,5,6,9,11月も企画されております。

《問い合わせ・申し込み》

カルメル修道会 上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

Eメール

mokusou@carmel-monastery.jp



## [カルメルの靈性研究クラス]

\* 十字架の聖ヨハネ：「カルメル山登攀」

1月7日、1月21日、2月25日、3月24日

(1月7日は、第2部第26章～第28章を読みます。)

\* アヴィラの聖テレジア：「自叙伝」

1月14日、2月4日、3月17日、3月31日

(1月14日は、第20章を読みます。)

どちらも水曜日、夜7：00より、上野毛教会信徒会館2階26号室でおこなわれます。

## [祈りの集い]

1月23日、2月27日、3月26日、

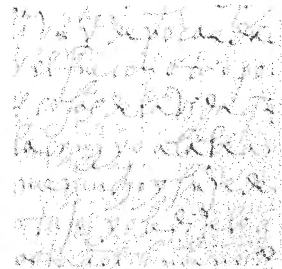
毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備も要りません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い（茶話会）

[靈性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの靈性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。

担当：九里<sup>くのり</sup> 彰神父



# 2004年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

## 【聖書深読黙想会 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月24日(土)～25日(日)	新井延和神父
2月28日(土)～29日(日)	福田正範神父
4月24日(土)～25日(日)	中川博道神父
5月29日(土)～30日(日)	福田正範神父
6月26日(土)～27日(日)	奥村一郎神父
7月24日(土)～25日(日)	福田正範神父
9月 4日(土)～5日(日)	新井延和神父
10月30日(土)～31日(日)	中川博道神父
11月20日(土)～21日(日)	九里 彰神父
12月11日(土)～12日(日)	奥村一郎神父

## 【青年のための黙想】

・男女性のため	4月18日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士、カルメル宣教会
	10月17日(日)午前10時～午後5時	カルメル会士、カルメル宣教会

## 【一般のための黙想】

・水曜の黙想	(午前10時から午後4時まで)	
	1月 21日(水)	受肉の神秘 新井延和神父
	2月11日(水)	イエスの祈り アロイジオ神父
	3月17日(水)	聖ヨセフ 福田正範神父
	4月14日(水)	復活 新井延和神父
	5月19日(水)	マリア様と共に 奥村一郎神父
	6月16日(水)	聖 霊 長岡幸一神父
	7月21日(水)	カルメルの祈り 新井延和神父
	9月15日(水)	十字架の神秘 福田正範神父
	10月13日(水)	アビラの聖テレジア シスターベアトリス
	11月17日(水)	諸聖人の通功 長岡幸一神父
	12月15日(水)	十字架の聖ヨハネ 奥村一郎神父

・四旬節の黙想 3月6日(土)午後5時～7日(日)午後4時 福田正範神父

・待降節の黙想 12月4日(土)午後5時～5日(日)午後4時 中川博道神父

・聖テレーズの黙想 伊従信子氏  
9月30日(木)午後5時～10月1日(金)午後4時

## 【奉献生活者の黙想】 (午後5時集合/午前9時解散)

7月11日(日)～ 7月20日(火)	新井延和神父
8月 2日(月)～ 8月11日(水)	中川博道神父
8月16日(月)～ 8月25日(水)	福田正範神父
10月18日(月)～10月27日(水)	福田正範神父

その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法: -

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX あるいはハガキでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないことがあります。その際は、おそれいりますが、後日、改めてお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

2004年

## 祈りの日

～ 奥村神父とともに

1月 26日(月)

2月 9日(月)

23日(月)

3月 15日(月)

29日(月)

時間：

3：00～3：20 講話

3：20～4：10 念祷

4：10～4：40 分かち合い

どなたでも参加できます

場所：宇治カルメル会修道院聖堂

お問い合わせ：宇治カルメル会修道院

Tel 0774-32-7456

Fax 0774-32-7457

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一日静修～（2004）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」（マタイ 28:20）といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみたいはいかがでしょう。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについてイエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月12日（月）	「聖ルカに聞く（1）」	松田浩一 神父
第2回	2月11日（水）	「カルメル諸聖人の道」	大瀬高司 神父
第3回	3月23日（火）	「聖ルカに聞く（2）」	松田浩一 神父
第4回	4月29日（木）	「わたしたちの召命」	中川博道 神父
第5回	5月25日（火）	「聖ルカに聞く（3）」	松田浩一 神父
第6回	6月29日（火）	「恵みの梅雨」	松田浩一 神父
第7回	7月19日（月）	「神の国への道標」	松田浩一 神父
第8回	9月28日（火）	「聖ルカに聞く（4）」	松田浩一 神父
第9回	10月11日（月）	「神の家族」	中川博道 神父
第10回	11月23日（火）	「わたしたちの使命」	九里 彰 神父

\*時間 いずれも AM10:00～PM4:00

\*場所 カトリック日比野教会（地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩5分）  
（駐車場は利用できません。）

\*費用 1,000円

\*持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当

\*定員 約15名

プログラム	10:00～	祈り
	10:45～	講話【1】
	12:00～12:45	昼食
	12:45～	ゆるしの秘跡または短い面接
	13:30～	講話【2】
	14:45～	ミサ
	15:30～	茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡または短い面接を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係（担当 松田浩一 神父）

FAX 052 [671] 1825、（お問合せ）TEL 052 [671] 1003

## 聖書深読センターが発足しました!

所長 : 奥村一郎 神父  
事務局長 : 新井延和 神父  
連絡先 : シスター ベアトリス  
〒611-0002  
京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)  
tel: 0774-32-7016  
fax: 0774-38-2543  
e-mail: [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

### 横浜聖書深読黙想会 2004 年日程

#### ◎ 1泊2日 コース

月 日	場 所	指導司祭
3月16日(火)～17日(水)	聖母の園 (横浜・戸塚)	大瀬高司師
5月19日(水)～20日(木)	鎌倉修道院 (鎌倉・十二所)	九里 彰師
9月15日(水)～16日(木)	鎌倉修道院 (鎌倉・十二所)	中川博道師
11月9日(火)～10日(水)	聖母の園 (横浜・戸塚)	奥村一郎師

#### ◎ 1日 コース

1月22日(木)	ザビエル・センター (横浜・滝之上)	九里 彰師
7月14日(水)	〃	大瀬高司師

連絡責任者 密本昌俊 TEL・FAX 045(621)5838

#### ・名古屋

- \* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- \* 原則として、定員は21名とし、申し込みはファックスまたは葉書でお願いします。
- \* コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全行程を行なう一泊二日コースがあります。
- \* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

連絡先 : 〒465-0058  
愛知県名古屋市名東区貴船 3-2115 小林 厚  
tel/fax: 052-701-3685

## ●通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

### 1. 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5の用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」、そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4月、7月、10月、1月に入れる）

継続 15,950円

講師：九里 彰師（奇数月） 新井延和（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

\*講師の変更：奥村一郎神父（奇数月）を九里神父が担当することになりました。

### 2. 谷口美智子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5あるいは、その半分に記号、全、および思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回300円 年10回3千円

送り先：〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町98-412

谷口美智子

TEL & FAX：075-821-0239

2004. 1/11（日）主の洗礼（ルカ. 3：15～16, 21～22）

2/8（日）年間第五（ルカ. 5：1～11）

3/14（日）四旬節3（ルカ. 13：1～9）

## ●ミニ深読

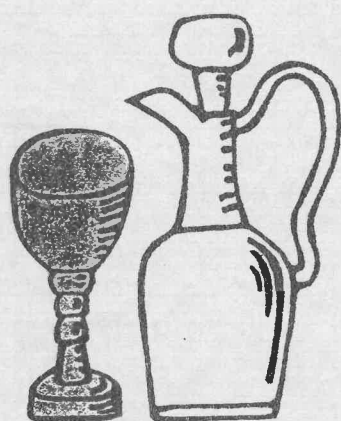
グループで、2, 3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光または、Sr. ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr. ベアトリスまでお願いします。

心の泉







## 光の神秘

チプリアノ・ボンタッキョ神父

キリストのすべての秘義は“光の秘義”と呼ぶことができます。けれどもこの光の秘義がおもに現されるのは、公生活の期間においてです。そのために教皇ヨハネ・パウロ二世はロザリオの従来15の秘義に加えたこの一連の秘義を“光の秘義”と呼ぶことになりました。

さて、“光の秘義”の第二番目の秘義として教皇は“カナで行われた最初のしるし”を選ばれました(ヨハネ 2, 1-11)。「そのときキリストは最初に信じた方であるマリアの執り成しによって、水をブドウ酒に変え、弟子たちの心を開いて信仰へと導きました」(おとめマリアのロザリオ N021)。

イエス様は弟子たちと一緒にその婚礼に出席しておられます。そして、この婚礼は最初のしるしを行う場となりました。それも母マリアの執り成しによってでした。途中でブドウ酒が足りなくなったことに気づいたマリアはその困った事態から婚礼の主催者を救い出すことがイエスにできることを知っていたので、イエスにその事態を話します。イエス様の返事は一見して分かりにくいものです。「婦人よ、わたしとなんの関わりがあるのです。わたしの“時”はまだ来ていません」と。イエスはしるしを行う“時”がまだ来ていないことを強調しておられるようです。でもわが子の心をよく知っていたマリアは、少しもためらうことなく、僕たちに「この人がなにかを言いつけたら、そのとおりにしてください」と言います。そこでイエス様はその辺に置いてあった清めに用いる六つの水瓶に水をいっぱい入れるように指示なさいます。その水は上等なブドウ酒に変わったのです。このしるしを見て弟子たちはイエスを信じたと書いてあります。

さて、この神秘の黙想の時、特に心をとめたいいくつかの詳細：

- ・マリア様の執り成しの力強さ
- ・人が困っていることにいち早く気づくマリア様の心。
- ・神の恵みの溢れる豊かさ。水瓶の容量も記されています。合計 約6～700リットルだったそうです。しかも、婚礼の世話係が言うように列席者の「酔いがまわった頃に劣った」ブドウ酒を普通出すのに、イエス様は上等なものを大量に…

- 婚礼は皆が喜びあう場であり、新しい家庭が生まれる時です。イエス様はその婚礼に出席なさることによって、神が人間の喜びを分かち合ってくださいること、また家庭を祝福してくださることをお示しになります。
- マリア様が召使たちにおっしゃる言葉「この人がなにかを言いつけたらそのとおりにしてください」という言葉をわたしたちにも常に心の中でおっしゃってくださるのではないのでしょうか。
- イエスの最初のこのしるしを見て弟子たちはイエス様を信じたと書いてあります。弟子たちの信仰はマリア様の取り次ぎの一つの大きな結果といえないのでしょうか…。
- 福音史家がマリアを“イエスの母”と呼ぶのにイエス様は母に話しかけるとき“婦人よ”と呼びかけられます。十字架の上からマリアを母として与えるときも、福音史家がマリアを“イエスの母”と呼ぶが、イエス様はやはり“婦人よ”と呼びかけられます。イエス様が敬語を使われることの意味は何だったのでしょうか。

以上、この神秘を黙想するとき心をとめたらよいと思ったいくつかの事柄を提示しました。

今度はロザリオのこの一連を唱えながら祈ったらよいと思ういくつかの恵み：

- イエス様とその栄光を世界の人に現してくださるように。
- マリア様の信頼の心を。
- マリア様のようにイエス様のいつくしみに満ちたお心を読み取ることができるように。
- マリア様のように人々のニード、靈的また物質的なニードに対して常に心を開いていられること。
- マリア様の「この人（イエス）がなにか言いつけたら、そのとおりにし

てください」という指示に忠実に従うことができるように。

カルメル家族のわたしたち皆がロザリオの祈りを愛し、よりよくそれを唱えることができますように。

## 断想(188)

### 神の現存

“神の現存”とは何ですか？

ふいに問われて 頭のタガが  
はずれたように感じたことがある  
考えなければ いいのだろうが  
考えると ナンダカ ぴんとこない  
なぜ？

いつ どこにも 神さまはおられるのに

神さまは 超自然でもなければ  
まして 不自然なものでは  
さらさらない

今 この手のひらに この体をつつむ  
空気のように 自然の自然

小さい人間の頭が つくりだす  
いくつもの ことばやレットルによって  
神さまは ガンジガラメになってしまう  
神さまだけでなく 自分自身さえも  
ああならなければ こうならなければ と  
自縄自縛 ついには 無縄自縛

あゝ 大地に足をのばし  
大空を仰ぎ  
大声で叫びたい

神はそこにおられる



(奥村 一郎)

## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(63)

### 非難することから赦すことへ

私たちの最もつらい苦しみは、私たちが愛している人々、そして私たちの方も愛している人々からしばしばやって来ます。夫と妻、親と子、兄弟と姉妹、教師と生徒、司牧者と信者、これらの間の関係は、私たちの最も深い傷が生じる場です。人生の終わりになっても、そう、私たちが傷つけた人々がずっと以前に死んだ後にも、これらの関係で起きた問題を解決するためになお助けを必要とすることがあるかもしれません。

大きな誘惑は、私たちに最も近い人々を現在の状態のことで次のように非難し続けることです。「あなたが、現在の私にしたのだ。私は今の自分が大嫌いなのだ」。自分の傷を認め、真実の自己は他の人々が私たちに対して行う結果以上のものであるとすることは、大きな挑戦です。私たちが、神によって造られた自己を、私たちの存在の真実の源泉として認めることができる時のみ、私たちは自由になり、私たちが傷つけた人々を赦すことができるでしょう。

(0408)

### 感謝という霊的な行為

私たちの人生に起きる良い事柄に対して感謝することは、簡単なことです。しかし、私たちの人生のすべてのことに対して感謝すること—良いことも悪いことも、喜びの時も悲しみの時も、成功も失敗も、報われる時も拒絶される時も—すべてに対して感謝することは、厳しい霊的な行為が求められます。けれども、現在の私たちへと至らしめたすべてのものに感謝できる時のみ、私たちは真に感謝に満ちた人間となることができます。私たちが人生を、思い出したい出来事や人々と、むしろ忘れたたい出来事や人々とに分裂させ続ける限り、私たちの今ある豊かな存在を、感謝すべき神の贈り物として主張することはできないでしょう。

私たちが今あるところへと私たちを導いてくれたすべてのものを見つめることを恐れないようにしましょう。それらの中にやがていつくしみ深い神の導きの手を見るであろうことを信じましょう。

(0112)

九里 彰訳

## 年間第4主日

## 愛の讃歌

(Iコリント13:1~13)

今日の第2朗読は、愛の讃歌と呼ばれる箇所です。新約聖書中でも最もよく愛を歌い上げたものです。と言っても、愛を一般的に述べているのではなく、教会の具体的な問題(霊の賜物の正しい使い方)をめぐる格闘の中から生まれたものです。

まずパウロは、愛がなければどんな賜物を持っていても無意味なものになると言います。どんな不思議なことばを話しても、また教会を作り上げる預言の賜物を持っていても、また完全な信仰があっても愛がなければ何にもならないのです。コリントの人たちは自分には知識があると自慢していました。しかし知識は人を高ぶらせるが、愛は人を作り上げます(8:1)。また全財産を貧しい人にあげるとか、わが身を死に引き渡すような華々しいことをしても愛がなければ何の益にもならないのです。

さらにパウロは、愛が他者との間においてどのように働くものであるかを語ります。愛は忍耐強く、情け深く、ねたまず、自慢せず、高ぶらず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かず、不義を喜ばず、真実を喜びます。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐えます。愛が行為に則してのみ語れると言うことが如実に示されています。愛と根本的に対立するのは、利己心と高ぶりです。また愛は決して弱々しいものでなく、信じ、望み、耐える力があります。こういう愛の一端に触れるとき、わたしたちの人生は大きく変えられるのです。

パウロがここで述べている愛は、人間の持つべき愛ですが、同時に神が人間を愛された愛を語っているともいえます。つまり十字架において示された、愚かとも見えぬ神の愛です。御父は人祖が命令を破っても、出エジプトの民が何度も反逆しても、またイスラエルの民が真の信仰から離れても、寛容にじっと人々の回心を待っておられました。そして何度も預言者を通して語られた後、ついに御独り子を世に使わされました。御父の愛はこれほど慈悲深いものでした。また人となられたみことばは、本当に謙遜で柔和な方でした。神への愛に反しない限り誰に対しても失礼なことをせず、また決していらだたず、恨みを抱きませんでした。十字架上の御姿を思い出すだけで十分でしょう。自分の利益を求めることはなく、かといって弱い方ではなく、不義は敢然と糾弾し、真理のみを行なっていました。そして、弱くて罪に傾きがちな私たち人間を信じ、人間の救いと言う希望を心にしっかりと持って、すべてを耐え忍ばれました。

歴史を通して示された神の愛は、私たち一人一人の歩みと無関係ではありません。私たちは救いの歴史の中を歩んでいます。聖書はどこか遠い国の人たちのことを語っているのでなく、私たちについて語っています。私たちが持つ悩み苦しきは、すでにイエズス・キリストにおいて解決しています。主が愛の究極を生き抜いてくださったからです。この主に聖書と御聖体を通して日々出会うことができます。

(新井)

## 年間第5主日

「私がここにおります。私を遣わしてください。」(イザヤ6:8)

今日の第1朗読で、召命を喜んで受け、死ぬまで忠実に果たしたイザヤの模範に心打たれます。イザヤは罪から清められただけでなく、神への愛と神を思う熱意に満たされたので、直ちに神の代弁者となることを志願しました。イスラエルという頑なな民に預言する難しい務めを彼は引き受けました。一人一人が、神から与えられた召命をどのように果たしているか反省してみましょう。司祭や修道者であれば、隣人を神のために働くよう鼓舞する模範となっているのでしょうか。学校や病院での日々の仕事、またお年寄りや体の不自由な人たちの世話が、神の愛が人々の間で今も働いているという生きた証しになっているのでしょうか。よいキリスト教的生活を送っているのでしょうか。今日、新しい熱意、勇気、確信を持って、自分の召命、人生の務めに向かうことが出来ます。イザヤと共に、「私がここにおります。私をお遣わしてください」と言いましょ。イザヤの言葉を受け入れたよき神は私たちの言葉をも受け入れてくれるでしょう。神は私たちに務めを忠実に果たせるよう恵みと力を与えてくれるでしょう。

救いの道がはっきりと描かれているキリスト教が与えられていることを神に感謝しながら、卑しい使徒、弱いけれど熱心なキリストの助け手として、与えられた小さな役割を行なうことで尊敬を表しましょう。これを雄弁や個人的な名声なしに行なうことが出来ます。家庭で、仕事の場で、レクリエーションの場で真のキリスト者として、日々の十字架を忍耐強く担い、隣人の十字架が重過ぎるように見えるときには喜んで手を貸す人として生きることによって、そうすることが出来ます。これが本当のキリストの使徒職です。行為は言葉より雄弁だからです。今日のキリスト者は、あらゆる面で神からの呼びかけと来世を忘れ、現在のみ生き、刹那の快樂を求め、現世的富と力の追求に加わるよう急ぎ立てられています。

今日の福音の中で、ペテロは「主よ、私から離れてください。私は罪深い者なので。」と言っています。この言葉は、主が奇跡を行なうことで本当の御姿を垣間見せたときのペテロの意識を示しています。驚きが彼を捉えました。驚きが信仰の始めとなることがあります。彼は奇跡の中にキリストの聖性を認識したのです。彼は自分が罪深くて相応しくないとわかり、こんな聖なる人の近くにいるべきでないと感じたのです。パウロのように、またイザヤがヤーウエにしたように、ペテロと仲間たちはすべてを捨て、イエスに従う者となりました。神がイザヤ、パウロ、そしてペテロにとって現存していたように、私たちに対しても現存していることを知っています。だから、非凡な要素は単に彼らの側の「信仰意識」の中にあると言ってよいでしょう。信仰の中に私たちは神に向かいつづけるべきです。そうするなら、神は私たちの日々の呼びかけをお聞きになり、そして神の助けによって私たちの返答は「ここにおります」となることでしょう。

(Beatrice)

## 年間第6主日

## 「キリストが復活しなかったらあなた方の信仰はむなし」

(Iコリント15:17)

聖地巡礼に行ったときのことで、高校時代から憧れていたエルサレムに30年たってついにやって来たという感慨に浸っていました。十字架の道行きのルートを通りながら聖墳墓教会をめざしました。現代のエルサレムの道を歩きます。エルサレムはイエスの時代以降何回か破壊と再建を繰り返したので、本当にイエスが歩いた道は地下に埋まっています。しかし道行きの最後のほうは聖墳墓教会の中にあり、それは歴史的に本物です。

聖墳墓教会に入り、イエスがかけられた十字架が立っていたと言う穴に手を入れて祈り、さらに進むと聖墳墓があります。イエスの遺体が葬られた場所です。イエスのかけられた十字架の場所と葬られた場所は同じ建物の中にあり、こんなに近かったのかと少し驚きました。本で読むのと実際ではかなり感じ方が違います。

聖墳墓の墓穴は一度に3人しか入れない小さいもので、順番を待ってから中に入りました。遺体が安置されていた棚があり、それに手を触れ、跪いて祈ろうとしました。すると頭の中が空っぽになり、何も考えられなくなりました。ついで感謝の気持ちが湧いてきて、心を満たしました。ここは主が復活なさったまさにその場所なのです。パウロは「キリストが復活しなかったらあなたがたの信仰は空しい」と言いましたが、私たちの信仰はまさにこの場所にかかっているのです。キリスト教のすべてがここにかかっています。パウロは「この世の生活でキリストに望みをかけているだけなら私たちはすべての人の中で最も惨めな者です」とさえ言います。キリストの復活があるからキリストの約束に実質的な力があり、地上を超えた栄光に私たちも預かれるようになります。キリストの復活ゆえに、見える世界がすべてでないのわかり、この世界を超えたところを憧れることが出来、希望をいつも持ちつづけることが出来るのです。

私個人についてもこの場所が地上に存在するから、生きて来られたと言っても過言ではありません。何度か人生で苦しい時期がありましたが、結局のところ信仰に支えられて乗り越えてきました。その信仰の根拠は主の復活であり、今私はその場にいるのです。私の罪、そむき、誤り、愚かさ、弱さ、卑怯さを主は復活によって乗り越えてくださっています。死の恐怖にもすでに打ち勝ってくださっています。私は弱い、主は強い。だから私は生きてこられたし、これからも信仰によって歩いていこう。

この場で復活された主が、マグダラのマリアに現れ、ペトロ、弟子たち、そして50人以上の兄弟に同時に現れ、またヤコブ、その他の人たちに現れました(Iコリント15:5, 6)。彼ら主の復活の証人が教会の礎となり、その教会が連綿として現代まで続いています。その末端に私のような小さい者もつながっているのだと感動で一杯になりました。

(新井)

## 年間第7主日

「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」(ルカ6:27~38)

ある日、一人の人が仏陀に会い、仏陀が教えていることを実行しているかどうか見てやろうと思いました。彼は釈迦にあらゆる悪口を浴びせました。罵り、馬鹿呼ばわりしました。仏陀はじっと聞いていました。彼が悪口を言うのに疲れたとき、仏陀は彼に言いました。「子よ、もし人が他人からの贈り物を受け取らなかったら、その贈り物は誰のところに行くだろうか。」彼は答えて、「贈り主のところに戻ります」と言いました。仏陀は言いました。「子よ、おまえはこのような悪口を私にくれたけれど、受け取らないことにするよ。」彼は何も答えません。さらに仏陀は言いました。「子よ、徳のある人間を中傷するのは天に向かって唾をするようなものだ。唾は天に届かず、唾をした人の顔に戻ってくるだけだ。「こだまの法則」によると、人は人生に与えるちょうど同じ物を人生から受け取ると言います。悪口を言うと悪口が戻って来、愛を与えると愛を受け取ります。

美しい人生の哲学であるキリスト教は、どのように成熟に達するかを指針を与えてくれるだけでなく、その動機と理由も与えてくれます。キリスト教的成長は、キリストにおける成長であり、天の御父のようになれと言う挑戦です。今日の聖書朗読は、神の似姿に向かうキリスト教的成長の二三の側面を黙想するよう招きます。

すべての人は隣人を心から愛さなければなりません。隣人は兄弟だからです。さらに、キリストの地上での派遣は人を神の子、天の相続人とします。私たちの隣人に対する関心は、霊的関心であるべきです。もし隣人が私たちの感情を害したとしたら、神の感情を害していることになり、こちらのほうが重大です。私たちの愛徳は、神のその人への赦しを求めることであるべきです。その人が私たちの許しを求めるのはこれに比べれば、それほど重要ではありません。

敵を愛することは、あうたびに抱きしめることではありません。憎しみを心から取り除こうとあらゆる努力をし、その人の中にある善を見ようとすることです。神は雨を正しい人の上にも、正しくない人の上にも降させます。神は喜びをもたらす人に親切ですが、嘆き悲しむ人にも同様に親切です。神の愛は聖人と罪人を同じように包みます。この愛を見習わなければなりません。他の宗教の間で生活しながら、すべての人を無条件に愛することを学ばなければなりません。他者を無条件に愛することによって、私たちが全能の、愛に満ちた神の子であることを人々に知らせようではありませんか。

(Beatrice)



## 四旬節第1主日

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる。」(ルカ4：1～13)

ブラサンナは村から遠くはなれた山の中に住んでいました。山には野獣と恐ろしい吠え声一杯でした。彼女はイエスともっと孤独な生活がしくて山の中に入ったのです。山の暮らしは大変で、夜になると野生の動物が家の近くを通り、たくさんの毒蛇と毒虫がやってきました。電気もなく、水は近くの川から汲みます。食べ物は彼女に助言を与えに来る人々から与えられました。

ブラサンナはなぜさびしい山の中で暮らすことを選んだのでしょうか。彼女は答えて、すべてのことから逃れ、何か真剣なことがしたかったからだと言っています。山で滞在中に、彼女は簡素な生活を保ち、たくさんの物質的な物に心を煩わさないなら、人生をはるかに深く、意義深く生きることができると悟りました。

ブラサンナのようにモーセも行ない、エリヤも、洗礼者ヨハネも行ないました。だからイエスも同じようにしたことも驚きではありません。しかし私たちが驚かせるのは人里を離れ一人で考え、祈るために出かけたときイエスに起こったことです。彼は悪魔の誘惑を受けたのでした。ここからイエスについてあることがわかります。彼が肉体に霊へ指図させない人だったということです。感情に行動へ影響させませんでした。彼はまったく霊によって生きていました。自分自身誘惑をお受けになったので、イエスは誘惑がどんなに圧倒的なものとなりうるかご存知です。どんなにたやすく誘惑に押し流されてしまうかわかっておられます。このため私たちが誘惑を受けるとき共感をお持ちになることができます。イエスは、私たちが誘惑の時に頼れる人です。また誘惑に負けてしまってもイエスにより頼むことができます。

キリストから与えられたこの模範から、キリスト者が障害や誘惑を受けることなく天国への道を歩めると思うことはできないし、そう思うべきでもないとわかりません。私たちの肉体は生活から得られるすべての楽しみと慰めを求めます。知性と自由意志の賜物は、しばしばたいいていの人を権力志向にします。人生の目的が自分自身と仲間が豊かになるよう助けることであるとき、私たちはこの世で他の人々よりいい暮らしがしたいと思います。

イエスは私たちに代わって私たちのすべての誘惑に打ち勝たれました。しかし贖いの業そのものと同様に、イエスの勝利も私たちが自分のものとしようと努めないなら私たちのものとなりません。神の助けと恵みがなければ最小の誘惑にも勝てません。しかし私たちはその助けを求め、受けるように備えなければなりません。イエスに倣うよう努力すべきですが、達成できなくても落胆してはいけません。人間であるとはどういうことかイエスにご存知です。イエスは誘惑のすべて、悪い傾きのすべてを取り去ってはくださらないかもしれません。しかしイエスの助けを真摯に求めるならそれらに打ち勝つ恵みを与えてくださるでしょう。

(Beatrice)

## カトリック ☆★ アラカルト ★☆ (6)

嶋崎 浩樹 (カルメル会)

### 《神道 (1)》

～ 神についての考え方 ～

今回は、日本の民俗宗教である神道とカトリックの関わり方を考えてみたいと思います。

当然一番違う点は、神道が多神教であるのに対して、キリスト教は一神教だということですが、でも、その神様の性質には大きな違いと共通点が存在します。

神道における神様というのは、わたしたちと共に生活する神様です。たとえば、稲作をするのも、田の神様と共にします。ですから、春祭りでは、田の神様に豊作であることを祈り、夏祭りでは稲の害虫のような災厄や不安を追い払い、秋祭りでは、その年の収穫に感謝するものです。その意味において、神道の神様というのは、わたしたちと共に歩む神様であるともいえます。これは、キリスト教の考え方とも一致する点です。聖書、特に旧約聖書においては、「神様と共にいる」という言葉があちらこちらにあらわれ、また新約以降では、イエス様がいつでもわたしたちと共にいてくれます。神道の神様は、共にいてくれる神様なわけで、火の神や水の神、山の神など、生活に密着したいろんな神様が存在し、それらの神様に対して敬意を払っていたのです。ですから、現代のようなむやみやたらな自然破壊は起こらなかったのです。

また、神道の考えでは、死んだ人は、祖霊となり、その後、祖先神(氏神)となっていきます。そして、わたしたちのそばにいてわたしたちを見守ってくださっているのです。ですから、神道で亡くなった人のお墓には、名前の下に「命(みこと)」、男性の場合は「大人(うし)」「彦(ひこ)」、女は「刀自(とじ)」「姫(ひめ)」などがつけられます。

この神になるということは、ある意味わたしたちキリスト教の考え方とも近いものがあります。創世記には、わたしたち人間は、「神様の似姿として創られた」とあります。つまり、全知全能性は別にして、わたしたちの究極的な姿、目指すべき姿というのは、神様になること、神様に似た者となることなのです。それは、わたしたちが完全な愛に生きるものとなることを示しています。愛において、わたしたちは、神様と似た者となるのです。

#### [参考文献]

「神道」 三橋 健編 大法輪閣刊 平成七年発行

「日本神道入門」 本田 総一郎著 日本文芸社刊 昭和60年初版

平成2年第十五版

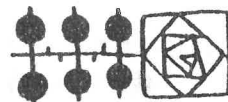
神社本庁ホームページ <http://www.jinjohoncho.or.jp/izanai/sosen.html>

\*なお、このカトリックアラカルトは [http://www.geocities.jp/hs\\_ocd/](http://www.geocities.jp/hs_ocd/)でも公開していません。

## いのらの言葉



愛によって築かれる平和



わたしの平和を与える。 (ヨハネ14・27)

今、地球上では、約30ヶ所で紛争が起っています。皆の注目をひく紛争もあれば、人々から忘れ去られている残虐な紛争も存在します。また「平穩」と言われる国々でも、暴力や憎悪が見られたり、けんか腰の態度を取る人々もよく見うけられます。

どの国の人も、平和、調和、一致を深く望んでいるでしょう。しかし、そのための努力や善意にもかかわらず、人間は2千年の歴史を重ねた今も、安定した継続的な平和を築くことができていません。

イエスは地上に来られ、私たちに平和をもたらしてくださいました。それは「世が与える平和」(\*1)とは違うと、イエスは言われます。単に、戦争や争い、分裂や傷跡のない状態をさすのではないからです。「イエスの平和」はそれをはるかに越えるもので、あふれる命と喜び、自由、人間の尊厳がすべての面で尊重されること、あらゆる国の人々が皆、愛の内に兄弟として生きることです。そして、イエスご自身が私たちの平和(\*2)でおられますから、次のように言われます。

わたしの平和を与える。

「ご自分の」平和をあたえるため、イエスは何をされたでしょうか。身をもって、そのために支払ってくださいました。イエスは私たちに平和を約束されたすぐ後で、弟子の一人から裏切られて、敵の手に渡され、残虐で屈辱的な死の宣告をお受けになりました。また人生の中で、イエスは敵対する者たちの間に入れられ、憎悪と分裂を身に浴びて、民を隔てていた壁を取り壊してくださったのです(\*3)。イエスは、私たちへの愛ゆえに、御父から見捨てられ、十字架上で死を迎えました。神と人、また人間同士を再び一つに結ばれ、すべての人が兄弟として生きる道を開いてくださったのです。

平和を築くためには、私たちにも強い愛が求められます。それは、愛にこたえない人々をも愛すること、赦すこと、敵という見方を乗り越えること、相手の国を自分の国のように愛することを知っている愛です。平和を築くために、私たちは、自分の利益や自分のことだけを考える小さな心の人間ではなく、日々兄弟姉妹に仕え、相手のために命すら与える覚悟を持つ「小さな英雄」に変えられていく必要があるでしょう。また平和を築くには、兄弟になりえる相手として、すべての人を見る、新しい心と目が必要です。

でも、次のような問いが浮かんでくるかもしれません。「そこには、同じマンションのあの怒りっぽい人も、職場で私の出世を邪魔する同僚も、別の政党の人、敵のサッカーチームの人も、他の宗教や外国の人も入るだろうか」と。

そうです。どの人も、私にとっては兄弟姉妹です。平和は、隣人一人ひとりと築く関係から始まります。イジーノ・ジョルダニ氏は、次のように記しています。「悪は人の心から生まれま  
す」、「戦争の危険を取り除くには、戦争を生み出す元となる攻撃や搾取やエゴの精神を、取  
り除かなければなりません。人間の良心を作り直す必要があります」(\*4)と。

### わたしの平和を与える。

こんにちイエスは、どのように、ご自分の平和を与えてくださるでしょうか。私たちが互いに愛  
し合い、一致している時、私たちの間にはイエスがおられます(\*5)。その時私たちは、彼の  
光と力を経験し、イエスご自身の霊と、その実りである愛、喜び、平和(\*6)を味わいます。一  
致と平和は同時進行するものです。

今月は、諸キリスト教会の交わりが満ち満ちた目に見えるものとなるよう、特に祈る月です。  
ですから私たちは、一致と平和の関係を一層強く意識することでしょう。ここ数年、諸教会やキ  
リスト者個人のレベルでも、平和のために多くの協力が見られました。

実際、私たちキリスト者の間に、満ち満ちた愛がないなら、エルサレムの初代キリスト者共同  
体のように心も思いも一つ(\*7)になっていないなら、イエスがもたらされた深い平和を、どう  
して証しすることができるでしょうか。

私たち自身が変わるなら、世も変わるでしょう。もちろん、紛争解決のため、個人や国々の共  
生に役立つ規則を作るために、働きかけるのは大切なことです。しかし何よりも、私たちを一  
つに結ぶものを浮き彫りにすることによって、平和のメンタリティ作りに貢献し、人類の善のた  
めに共に働くことができるでしょう。

私たちが、寛容・尊重・忍耐・赦し・理解などの真の価値観を証しし、広めていくなら、平和に  
逆行する他の姿勢は、自然と後退するでしょう。

私たちはこのことを第二次世界大戦中に経験しました。数人の少女だった私たちが、愛する  
ためだけに生きよう、と決心した時のことです。私たちはまだ若く、不安もありましたが、互いの  
ために生き、最も貧しい人たちから始めて周りの人々を助け、命を与える覚悟で仕え始めた  
時、すべてが変わるのを体験しました。私たちの心には新しい力が与えられ、周りの社会も変  
わり始め、小さなキリスト者共同体、「愛の文明」の種が生まれるのを目にしたのです。最終的  
に勝利を治めるのは、愛です。愛は、何にもまさって、強いものだからです。

今月は、平和と正義という新たな文化のパン種となるため、このように生きてみましょう。私た  
ち自身も、周りの人々も、新しい人々に変えられるのを経験するでしょう。

キアラ・ルービック

- \*1 ヨハネ 14・27参照
- \*2 エフェソ 2・14参照
- \*3 エフェソ 2・14-18参照
- \*4 著作「戦争の無益」(2003年)より
- \*5 マタイ 18・20参照
- \*6 ガラテヤ 5・22参照
- \*7 使徒行録 4・32参照

\*フォコラーレセンター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail [focolare@sa.uno.ne.jp](mailto:focolare@sa.uno.ne.jp)

(39)

一九九九年四月一日

曖昧さ、というものがある。二つある。善いほうへ出る曖昧さと、悪いほうへ出る曖昧さと。また嘘も方便という。つまり嘘を吐いていい時といけない時があるということだ。二つの道があり、その一つは滅びに至る道。神に従う人の道を主はご存じだ。ただそう見えるだけの傲慢があり、そして遜るのも傲慢のうち。ナチスの中にも救われるものはおり、カトリクの中にも毒麦は生える。祝福された性と呪われた性は紙一重ではないか。一なるものはただ神のみ。

蛭田幼一



## アレルヤおばあさん

その頃、わたしは外国にいて、貧しい学生でした。でも、家から教会が近かったので、贅沢にも、毎日御ミサに与り御聖体を頂くという、豊かな生活をしていました。その教会には、よく御聖体訪問に来るお年寄りがいました。賑やかなおばあさんで、いつも大声で、「アレルヤ！アレルヤ！」と叫びながら聖堂に入って来る人です。わたしは、このアレルヤおばあさんが好きでした。

さて、その教会には、小さな男の子を連れてお母さんが、ちょくちょく物乞いに来ていました。ある日、御ミサの後、わたしは、このお母さんに呼び止められ、「子供に何か食べさせたいのでお金を下さい」と頼まれました。わたしも貧しく、その時、わずかな小銭を持っているだけでした。迷ったけれど、子供の顔を見て負けてしまい、持っていた小銭を幾らか、彼女に渡しました。

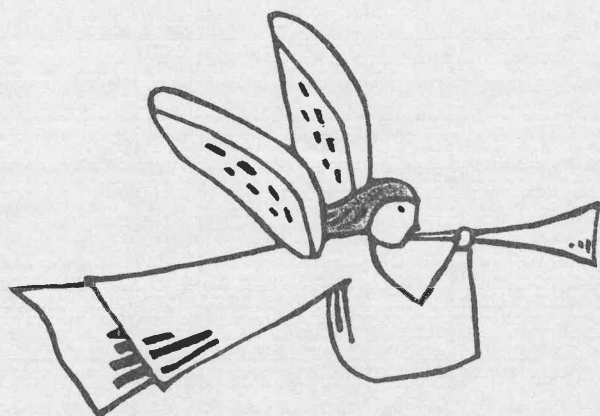
でも、貧しい親子が帰ってしまった後で、わたしは、けちくさい後悔をしみじみとしてしまったのです。『あのお金で、パンとミルクを買おうと思っていたのに・・・もったいないことをした』などと、心の中でつぶやきながら、もう誰もいない聖堂の中で、御聖体の前にひざまずいていました。

しばらくしてから、あのアレルヤおばあさんが、聖堂に入って来たのです。「アレルーヤ！アレルーヤ！」と言いながら、聖堂の後方の扉から、わたしの祈っている御聖体の前まで歩いて来ます。「アレルヤ」の声は、やがて、わたしの背後まで来て静かになりました。背後に立っている彼女の気配を感じて挨拶をしようと振り向いたわたしに、彼女は、こんなことを言ったのです。

「イエス様は、お金では買えないよ！絶対に買えないよ！どんなにたくさんお金を出しても、イエス様は買えない！」

どうして彼女が、突然、こんなことをわたしに言ったのかは分かりません。でも、毎日、「ただで」イエス様の御体を頂いていたのに、「貧しいイエス様」に差し上げたわずかな小銭を惜しむ自分を、神さまが、このアレルヤおばあさんを通してお叱りになったのかもしれない。 丸山知佳子

## 諸々の企画案内



ノートルダム・ド・ヴィ

風 の 家

スズランハウス

瞑想 の 家

三位一体の聖体宣教女会

真命山霊性交流センター

マリアの御心会

心のいほり、内観瞑想センター

リーゼンフバー講座

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

聖心会黙想の家

京都教区聖書委員会（聖書深読）





## 諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247  
Fax(03)3594-2254

\* 祈りの集い・いのちの泉へ

204. 1月24日(土) 私は神を見たい - 神への渴き - 了

2月28日(土) 生ける神のみ前に - 神との語り -

3月27日(土) 新しい生命を生きるために

- 洗礼による神とかかわり -

講話：伊従信子・片山はるひ(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

プログラム：午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合いの時間  
ミサ(翌・日曜日の典礼) 参加費：200円

問い合わせ・申し込み

Tel (03) 3594-2247

(電話は夕方6時~夜9の間をお願いします)

Fax (03) 3594-2254

(Fax送信は何時でも結構です) 又は郵便で

### 風 の 家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『<sup>フネマ</sup>風』編集者

\*新住所：〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

ズランハウス : 責任者・井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族  
のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細については電話で問い合わせして下さい。

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

### 瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会)

\*詳細は電話で問い合わせして下さい。

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年

「聖書で祈る」： 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2004, 2月21日（土）5:30pm～22（日）4:00pm

6月26日（土）5:30pm～27（日）4:00pm

11月27日（土）" 28（日）"

2005, 2月26日（土）" 27（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（カルメル会）

対象：男・女青年信徒

2004, 2月8日（日）10:00am～4:00pm

6月5日（土）10:00am～4:00pm

11月20日（日）10:00am～4:00pm

2005, 2月8日（土）" "

黙想会：指導：星野正道師（カルメル会） \*対象：一般信徒（お弁当持参）

2004, 2月9日（月）10:00am～4:00pm

6月4日（金）10:00am～4:00pm

11月19日（土）10:00am～4:00pm

2005, 2月4日（金）10:00am～4:00pm

年の黙想会： 指導：瀬戸勝介 師（イエズス会） \*対象、修道女

2004, 8月16日（月）5:30pm～8月25日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い \*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～2:00Pm)

# 真命山の靈性

黙想会

座禅と十字架の神秘

日時 3月26日(金) 17:00から

28日(日) 13:00まで

自然の中でキリストの復活を祝う

日時 4月23日(金) 17:00から

25日(日) 13:00まで



自然 神はすべてを造り、  
人の手に委ねらる

10日間の黙想

日本の伝統文化に基づく靈性

日時 8月4日(水) 17:00から

12日(木) 13:00まで

陽の昇るところから  
陽の沈むところまで 祈り

静けさ 沈黙の中に神の  
言葉を聞く

信仰体験  
を分かち 交わり

\*\*\*\*\*

研究会

2004年度のご案内

キリスト者とは他宗教との対話その真意

日時 4月30日(金) 17:00から

5月2日(日) 13:00まで

祈りの集い

テーマ 聖人の祈りに学ぶ

\*\*\*\*\*

1月 8日 聖トマス・アクイナス

2月 12日 日本の殉教者

3月 11日 十字架の聖パウロ

4月 22日 シエナの聖カタリナ

5月 13日 聖アルフォンソ

6月 10日 聖マルガリタ・マリア  
と聖ファウスティナ

7月 8日 聖ベネディクト

9月 9日 聖フランシスコ  
サレシオ

10月 14日 アビラの聖テレジア

11月 11日 福者三位一体の  
エリサベツ

12月 9日 十字架の聖ヨハネ

第6回 諸宗教平和の祈りの会

日時 2004年10月3日(日)

14:00~17:00

尚、個人、グループで黙想会、研修会など  
ができますので、ご相談ください  
宿泊は10名位迄可能です。

申し込み

〒 865-0133

熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

JR信濃町駅下車徒歩2分

申し込み・TEL.03-3351-0297 ・FAX.03-3353-8089

e-mail midorif@jpc.apc-org

1. 祈りの集い・とき：2/14 (土) 18:00~20:00

テーマ：「生命」

対象：どなたでも

2. 「来て・見なさい」プログラム

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

とき：1月22日(日) 10:00~16:30 (ミサあり)

テーマ：「十字架の神秘」

指導：具正 禰 師(イエズス会)

対象：20代、30代の独身女性・(参加費：500円・聖書ご持参)

『心のいほり・内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

\*TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

\*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

\*希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

\*2004. 2/8 (日) 4時~2/14 (土) 2時まで京都・竜安寺  
2/22 (日) 2時~2/28 (土) 2時まで沖縄・与那原  
3/7 (日) 2時~3/13 (土) 2時まで横浜・戸塚  
3/22 (月) 2時~3/28 (日) 2時まで兵庫・宝塚売布  
4/18 (日) 2時~4/24 (土) 2時まで横浜・戸塚  
5/9 (日) 4時~5/15 (土) 2時まで京都・竜安寺  
5/24 (月) 2時~5/29 (土) 2時まで盛岡・白百合  
6/2 (水) 2時~6/8 (火) 2時まで横浜・戸塚  
6/20 (日) 2時~6/26 (土) 2時まで兵庫・宝塚売布  
7/5 (月) 2時~7/11 (日) 2時まで横浜・戸塚  
7/18 (日) 2時~7/24 (土) 2時まで沖縄・クララ修道院

# リーゼンフーバー講座・集い案内

2003～2004年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学7号館316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分  
●木曜日 18時～20時30分  
上智大学内 Kultourハイム 1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。  
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ●4月28日(月)20時30分～5月5日(月)14時  
6月13日(金)20時30分～15日(日)14時 秋川神冥窟  
8月9日(土)20時30分～16日(土)14時 1泊2400円程度  
10月31日(金)20時30分～11月4日(火)14時  
2004年2月21日(土)8時30分～22日(日)16時 上石神井5400円  
●5月24日(土)13時～25日(日)16時  
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 宝塚市
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム 1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。  
但し、8月には26日のみ(上智大学内 Kultourハイム聖堂)。12月24日休み。  
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム 1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)
- 祈りの集い 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
4月12日、5月10日、6月7日、7月5日、8月23日、9月20日、10月11日、  
11月15日、12月6日、2004年1月10日、2月14日、3月6日
- 黙想会 6月21日(土)10時～22日(日)15時、  
9月13日(土)10時～15日(月)15時、11月22日(土)10時～24日(月)15時、  
2004年3月13日(土)10時～14日(日)15時  
1泊4400円程度
- アガペ会 説明会と集い 下記の日 13時30分～ 20代～40代の信者  
4月13日(日)、6月8日(日)：上智大学カトリックセンター  
10月4日(土)、2004年1月24日(土)：S.J.ハウス第5会議室
- クリスマス会 12月20日(土)16時30分～ 上智会館5階第6会議室 要申し込み  
ミサ 12月23日(火)14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)  
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

# ～祈りの集いのご案内～

ともに聖書を読みながら、「人生の目的」「生きること」「愛すること」について  
考えませんか。

## 祈りの集い

日 時 2月8日(日)・3月14日(日)

2:00～4:00

対 象 : 20代30代の未婚女性  
キリスト教に興味のある方  
聖書を読んでみたい方  
祈りを深めたい方

参加費 : 無料

担 当 : ノートルダムのシスターズ

場 所 : コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

申込み・問い合わせ :

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院 (係 : Sr.山本・Sr.渡辺)

TEL : 0424-82-2012 FAX : 0424-82-0760

E-mail : mariaprovince@tokyo.email.ne.jp

URL : www.cnd-m.com

聖心会裾野修道院ヴィラ・フジ（黙想の家）

〒410-1126 静岡県裾野市桃園 198

TEL: 055-992-2120 FAX055-992-2165

A. 個人指導の黙想会・・・(初日夕食6時より最終日の朝食まで)

(2-3日だけの参加も可能)

①2004年7月1日(木)～7月10日(土) Fr. イシドロ リバス (S.J.)

Fr. 村上芳隆 (O.F.M.) Sr.交野

②2004年9月1日(水)～9月10日(金) Fr.アロジオ カンガス (S.J.)

Sr.交野

B. 2泊3日の静修

2004年4月28日(水)午後5時～4月30日(金)

Fr.松本秀友(京都教区) Sr.交野

A,Bの申込先: 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心会明けの星修道院

Sr.交野君子 Tel,Fax03-3409-1937

往復はがきに、住所、氏名、電話番号をお書きの上、何日の何食～何日の何食までと明記してください。

C. 聖書による個人指導の黙想会

①2004年1月26日(月)～2月4日(水) Fr.松本秀友 Srs.吹田、長谷川

②2004年9月10日(金)～9月19日(日) 司祭、Srs.吹田、長谷川

③2005年1月24日(月)～2月2日(水) 司祭、Srs.吹田、長谷川

Cの申込先: 〒108-0072

東京都港区白金4-11-1 聖心会レターレ修道院

Sr.吹田 眞佐子 Tel 03-3446-1270

Fax. 03-3441-0454

〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833 聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel 052-302-4385

Fax. 052-309-1670

D 一般黙想 テーマ：自分探し（2回シリーズ）

①2004年11月16日（火）（お弁当持参で、11時集合）～18日（木）昼食まで

Fr.近藤（心のともし火） Sr.長谷川

②2005年春に予定

Dの申込先：〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel.052-302-3485

Fax052-309-1670

E 一般黙想 テーマ：小さな事から自分を変えよう。

——新カテキズムを学び祈ろう——

①2004年4月17日（土）11時半～4月18日（日）正午解散（昼食なし）

Fr.星野正道（カルメル会）

②2004年12月3日（金）11時半～12月4日（土）正午解散（昼食なし）

Fr.星野正道（カルメル会）

Eの申込先：〒248-0024

鎌倉市稲村ガ崎3の6の47

早川春日

葉書きで参加する月・日・住所・電話番号・名前を明記してください。



# 聖書深読ご案内

2004年度

聖日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解読で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想会に、お誘い合わせの上、ご参加ください。

1	1月31日(土)	新井 延和神父
2	2月28日(土)	奥村 豊神父
3	4月17日(土)	新井 延和神父
4	5月22日(土)	奥村 一郎神父
5	6月12日(土)	中川 博道神父
6	7月10日(土)	未 定
7	9月18日(土)	ペテロ・バーケルマン神父
8	10月9日(土)	奥村 一郎神父
9	11月13日(土)	新井 延和神父
10	12月9日(木)	奥村 豊神父

場 所： 河原町カトリック会館 6階

費 用： 各回 2,500円 (昼食代を含む)

時 間： 午前10:00 ~ 午後 4:00

持参品： 聖書・筆記用具・ノート

申込・問合せ：〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル  
河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

主 催： 京都教区聖書委員会

# 聖書に親しむ

## — 聖書を心で読む —

監修 カルメル会司祭 奥村 一郎

### < 講座のねらい >

聖書にはさまざまな読み方があり、理解のしかたも人それぞれです。その聖書の心に触れ、学び、理解を深めていくことを目的としている深読法とは何か。通信講座「聖書に親しむ」の監修である奥村一郎神父が、深読法について具体的に聖書を通して解説します。聖書に関心ある方、今まで聖書を読んだことがない方でも参加できます。

※ 『聖書』（聖書は、通常「新共同訳」を用います。他の翻訳（新旧約を含む）でも結構です）『聖書深読法の生いたち』をお持ちの方は、ご持参ください。

### < 講師紹介 > 奥村 一郎（おくむら・いちろう）

東京大学在学中に仏教よりキリスト教に改宗。大学卒業後にカルメル会入会のため渡仏。帰国後、主に諸宗教との対話とその交流に関与する。カトリック司祭（カルメル会）。主な著書に『祈り』『断想』『神とあそぶ』（女子パウロ会）、『聖書深読法の生いたち』（オリエンズ宗教研究所）ほか。

日 時 2004年3月8日（月） 午後3時30分～5時30分  
場 所 新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター（裏面参照）  
受講料 3,300円（税込み）

### 【申し込み方法】

電話予約の上、郵便局備え付けの振込用紙をご利用になり口座番号「00150-6-87041」加入者名「朝日カルチャーセンター」、通信欄に「聖書に親しむスクーリング」と予約番号、払込人欄に住所・氏名（フリガナ）、電話番号をご記入の上、受講料3,300円をお送金下さい。振込票（受領証）は当日ご持参の上、教室前の受付でご提示下さい。ご送金後から当日まで変更がない限り、朝日カルチャーセンターから連絡は差し上げませんので、ご了承下さい。祝祭日を除いて、新宿住友ビル4階でもお申し込みいただけます。

### 【お問い合わせ】

朝日カルチャーセンター 通信講座課 TEL. 03-3344-2527（直通）  
〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル私書箱21号  
インターネット接続先 <http://www.acc-web.co.jp>

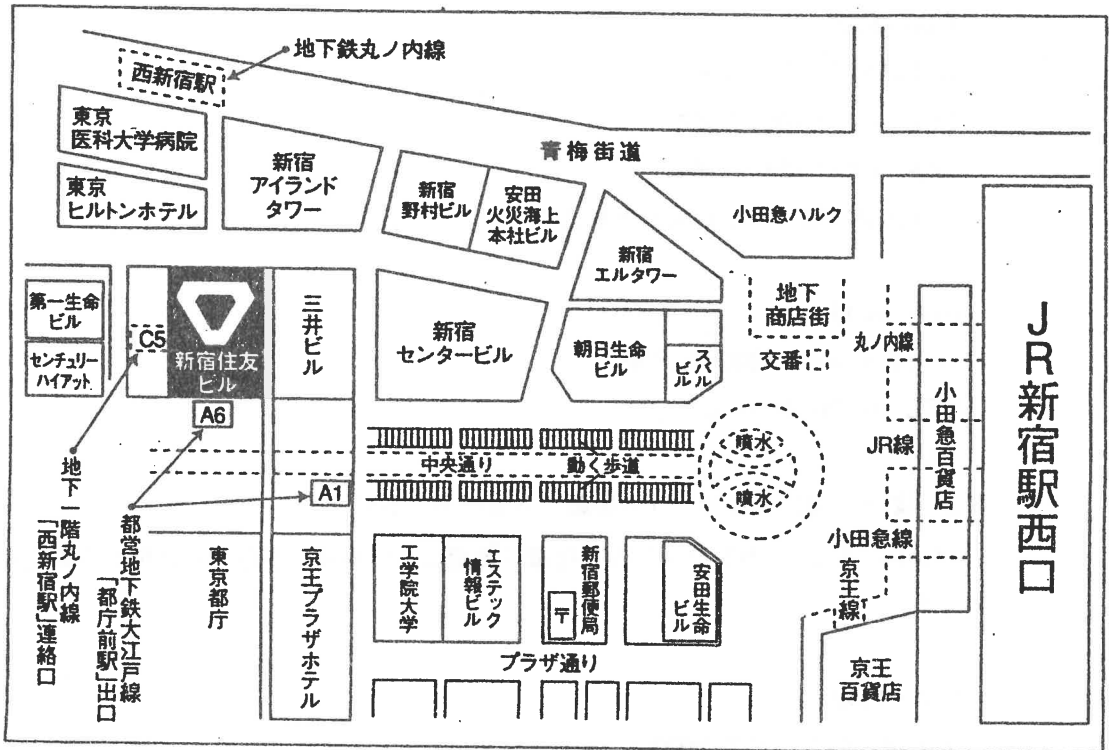
## 〈会場へのご案内〉

朝日カルチャーセンター（新宿住友ビル内）は、JR小田急線、京王線、西武新宿線など、いずれも「新宿駅」下車、新宿駅西口広場から徒歩8分です。また、地下鉄丸ノ内線「西新宿駅」から徒歩5分、都営地下鉄大江戸線「都庁駅前」から徒歩1分のところにあります。

新宿駅からお越しの場合は、地上の道路よりも地下道からの方が分かりやすいです。

### ※ 地下道からの道順

JR「新宿駅」地下改札口を出て右側に、小田急エースに沿って地下道を真っ直ぐ歩くと、そのまま地上に抜けます。右手2つ目の銀白色の高層ビルが新宿住友ビルです。



上野毛・宇治・大分

## カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

聖テレジア修道院（黙想）はカルメルの霊性を体験し、深めたい方のためのものです。黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

京都駅から JR 奈良線 「六地藏」下車徒歩15分

バス停「町並」（京阪バス）から循環「御蔵山」<sup>おくらやま</sup>に乗り「西住宅バス停」下車徒歩5分

870-1152

大分県大分市上宗方 1800-3

TEL 097-541-4012

FAX 097-541-4404

大分駅からバスで18分「<sup>あけがわらばし</sup>明礪橋」下車、橋を渡りすぐ右折徒歩8分

男子跣足  
カルメル修道会

## お 願 い

投稿くださるときには、次のようにしていただくと幸いです。

1. 締め切り 毎月10日
2. 「心の泉」のコーナーについては、
  - ①随想、こぼれ話など。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
  - ②その他、書評等。
3. 「諸所の企画」のコーナーについては、
  - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
  - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
  - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
5. 寄稿連絡は、九里 彰神父宛にお願いいたします。  
〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院  
Tel (03)3704-2171 Fax (03)3704-1764
6. 「霊性センター・ニュース」をより内容豊かなものとしてゆくため  
に、これからも献金へのご協力をお願いいたします。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで郵送ご希望の  
月数分×220円切手または現金を送ってください。これには、封筒  
代が含まれています。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

## あ と が き

前号より、「霊性センターニュース」の編集委員会なるものを発足。  
「三人集まれば文殊の知恵」とか…、われわれは、現在四人。「四人集  
まればキリストの知恵」とでも行きたいところだが、さてどうなるこ  
とやら。すべては聖霊の風のおもむくままに。

故押田成人神父の言葉が心に残っている。「…その時はじめて、自分  
の生涯の、殊に宗教的な名においてしていた献身的な仕事というもの  
を、ハッと一時に見たわけです。そして自分の仕事が神の息吹による  
ものではなかった、むしろ自分の情熱によるものであったということ  
を見たわけです」。すべての人が自己満足的傾きから、うらみやねたみ  
に囚われている自分自身から解放されていきますように。

(P.九里)

